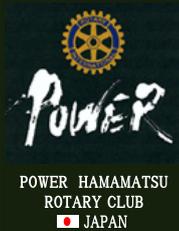


国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



週報 パワー浜松ロータリークラブ

クルクルまわそうロータリー

RI 会長 ジェニファー・ジョーンズ/第 2620 地区ガバナー 浅原諒蔵 /会長 加藤ひとみ /幹事 高部光司
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002年10月22日 認証伝達式：2003年4月29日 スポンサークラブ：浜松中RC



第909回例会10月4日(火)AM7:30~8:30

出席報告/スマイル報告

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3階 チェルシーの間
- 司会：小林昭次 原田道子 ■点鐘：加藤ひとみ ■週報：高貝 亮
- ロータリーソング：「奉仕の理想」(※音楽のみ)
- ゲスト：社会福祉法人浜松市社会福祉協議会地域支援課係長 浅山恵一様
天竜浜名湖鉄道(株) 地域連携センター センター長 伊藤文俊様
浜松いわた信用金庫 SDGs 推進部 副部長 米澤浩祐様
米山記念奨学生 陳俊達さん

会員数 74名(内 出席免除会員 1名)
出席数 62名 出席率 84.93%

スマイル提出者氏名掲載
加藤ひとみ会長・高部光司幹事
財団プログラム委員会、土屋公良会員
近藤雅彦会員・RIG-ジョー会員
ゴルフ同好会

会長挨拶 加藤ひとみ 会長



皆さんおはようございます。本日は、地区補助金事業として今月の最終週、並びに 11月13日に予定されている、はままつ子供の学習教室へのお弁当の配布、子ども食堂の開催としてのイベントについての説明が議題となっていますが、今回この事業をすることとなった経緯を簡単にご説明させていただきます。地区補助金事業そのものについての説明は長くなりますので割愛させていただきます。最近はこの事業についてはただ単に地区補助金事業と言われてはいますが、当初は「未来の夢計画」と呼ばれていました。各ロータリークラブで奉仕事業を計画して申請すると一定の額の補助金が地区からでて、大きな事業ができる、という趣旨のものです。これは、必ずやらなくてはならない訳ではないのですが、当クラブでもほぼ毎年行ってきました。子供たちに気球を体験してもらおう、という事業から始まり、昨年のセラピードッグに関するオンラインでの事業まで、様々な事業をしてまいりました。

この事業は、単年度毎のもので、同じ事業を継続してすることができないということ、単年度ごとで有るがゆえに、準備期間が短く、担当する会員の方の負担が重くなるという点があります。また、補助金の申請時期が早いために年度が始まる前から決めなくてはなりません。今回もこの事業が大変な事はわかってましたので、昨年コロナで中止となったスナッグゴルフ大会でリベンジ、ぐらいいいかなあ、なんて思っていたのですが、財団プログラムの委員会を年度前に行った際に、様々な案が出てまいりました。どれもとても良い事業と思われるものばかりでしたので、その中で数点を選び、皆様にアンケートを取らせていただき、一番賛成が多かった、「子ども食堂の支援」という今回の事業をすることとなりました。

年度のはじめでは、子ども食堂の支援、というだけで具体的に何をするかは全く決まっていなかった状態で、さあ、どうしようか、となったのですが、クラブが独自で子ども食堂するには超大変だし、既存の子ども食堂を支援といっても何処をどのように、といったことが分からず、これらのことを把握していらっしゃる社会福祉協議会に相談し、結局、普通の塾に通えない子供たちの学習を支援している学習教室にお弁当を配布したらどうか、ということになりました。また、食材等の供給先としては、普通の業者に依頼するのではなく、「就労継続支援A型事業所」という障がい者が働く事業所に依頼することによって、その障がい者も支援できるという一石二鳥を狙うことにもなりました。今までこの為に大変な時間を割いていただきました、安間財団小委員長はじめ財団の各委員の皆様、準備段階から関わっていただいている松島奉仕プロジェクト委員長、諸々の調整をして頂いております熊谷担当副会長兼ロータリー財団委員長、本当にありがとうございます。まだまだ、これからも大変ですが、よろしく願います。また、浅山様には本日卓話を頂き、この事業の意義を再確認させていただきたいと存じます。会員の皆様方も、今回は変則的な事業となり参加に大変な部分もあるかと思いますが、是非ご協力をお願いいたします。

幹事報告 高部光司 幹事

- ① 配布物の確認 ロータリーの友
- ② 10月~12月 会費 について 引落口座の残高確認をお願いします
- ③ 休会者について 豊田充孝さん(10/1より復帰) 田中紀春さん(9/30退会)
- ④ 台湾 M6.8 地震支援金 (米山学友による募金活動) について
- ⑤ 第 914 回例会(地区補助金事業)について
 - 第1部 就労継続支援 A 型事業所から「はままつ子供の学習教室」への弁当配達 10月24日(月)~29日(土)
 - 第2部 こども食堂&イベント 11月13日(日)
- ⑥ 気賀駅除草作業について 10月16日(日)8:30~10:30
- ⑦ 第 32 回全国花のまちづくりコンクール 団体の部「天浜線 人と時代をつなぐ花のリレープロジェクト」

本日、レターケースに地区グループ毎奉仕活動事業「天浜線 人と時代をつなぐ花のリレープロジェクト」として、第910回例会 気賀駅除草活動を行うことのご案内分を入れさせて頂きました。草刈りに適した服装で来て頂く様をお願いすることと、防草シートの上が大変滑りやすくなっていますので十分にご注意ください。

財団プログラム小委員会「地区補助金事業の説明」～浜松市における子ども食堂の現状と課題について～

皆さんこんにちは。浜松市は地域における支援団体等の活動推進のために、子供支援コーディネーターというものを配置しております。私はこの事業の支援を浜松市社会福祉協議会として行っている関係で今日、この場に立たせていただいております。私達の日頃の取り組みとしては、子ども食堂など子供の居場所づくりの立ち上げに関する支援、ボランティア団体などへの活動の場の紹介、子供居場所への民間企業や個人からの寄付等のマッチング、浜松市学習支援事業の利用者申込窓口、支援団体間の連携強化のための連絡会等の開催、等です。

1. 子供の貧困とは

貧困というイメージは何となくお持ちだと思います。貧困は絶対的貧困と相対的貧困に大別されます。「昔はもっと貧しかった、豊になった現在では貧困など無いのでは？」という考え方は、戦後の皆が貧しかった時代の絶対的な貧困の時代と現代を比較したものです。周りを見てもみな貧困だった時代と違い、現代の貧困は「はずかしくて隠してしまう」など、見えにくい潜在的な貧困であり、相対的な貧困だと言われています。経済的な理由で進学ができない、習い事ができない、友達と遊びに行けない、そのような子供がいわゆる貧困と呼ばれています。就学援助、生活保護を受けている世帯が147万人、ひとり親家庭の相対的貧困率というものが50.8%、18歳未満の子供の7人に1人が相対的貧困にあると言われています。

子供の貧困については他人事ではなく非常に身近な問題であり、社会全体で取り組むべき問題だと考えています。その理由としましては、子供だけの頑張りでは解決できない、保護者が困窮している(特にひとり親は半数が相対的貧困で頑張っているが困窮から抜け出せる状態にない)、困窮している保護者も、その親が困窮している適切な養育環境ではなかったために低学歴、低収入であることが上げられます。このように貧困は連鎖をしていきますので、社会全体の問題としてとらえて取り組んでいく必要がある問題だと思います。

2. 子ども食堂について

子供の貧困に対する支援としまして、浜松市でも中心的に行っているものの1つが子ども食堂です。子ども食堂は2012年に東京の八百屋のおばちゃんが名乗って始めたのが始まりだと言われています。2021年では5年間で18倍と急激な速度で増えて来ています。浜松市におきましても近年数が増えてきておりまして、それに伴って企業さん、団体、個人からの支援をしてあげたい、という思いの相談も同様に増えてきているのが実状です。子ども食堂というものは民間発の取り組みであって、実は明確な定義付けがされているものではありませんし、法律に基づいているものでもありません。明確な定義がない分、こうした取り組みがしたい、といったときには自由に活動ができるわけですが、参考にお伝えしているのが「NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえ」の、「子供が一人で行ける無料または定額の食堂」です。また厚労省では「地域のボランティアが子どもたちに対し無料、または安価で栄養のある食事や様々な団らんを提供する取り組みを行うのが子ども食堂」としています。浜松市内の子ども食堂の分布では、まだ空白の部分があります。1小学校区に1つの子ども食堂が理想とされていますが、まだ3分の1程度です。コロナ禍でも開催を休止したという食堂はほとんどなく、様々な形で開催をしていました。

子ども食堂の課題としては「ヒト・もの・金」というカテゴリーで分類して説明しますと、「ヒト」では、情報発信が不十分であったり、参加者が人の目を気にするという点もあつたりで、本当に参加してほしい子供に参加してもらえていないという点があります。また、基本的にボランティア運営ですので安定的なスタッフの確保が難しいという点もあります。「モノ」と「金」の課題としては、運営費が助成金のほかは開催者の自己負担になりますので、定期的な開催ともなると体力的に厳しいというところもあります。そのため、個人や事業所からの食材の寄付ありがたいという声があります。子ども食堂を支援することは、SDGsにも該当してきますので、是非その選択肢の一つとしてお考え下さい。

3. 学習支援事業について

浜松市では、子供の貧困対策の柱の2つ目として学習支援事業を実施しています。教科書の予習や復習、宿題を、一人親世帯や生活保護受給世帯など、経済的理由や家庭環境などの理由により学習支援を必要とする小学4年から中学3年までの子供を対象として地域の支援団体と協力して実施しています。参加費は無料、開催はおおむね週1回となっています。伴走型支援をすることで将来の進学などへの動機づけになってくれればと考えています。浜松市内26カ所で開催されておりますが、子ども食堂とは違い、誰でも参加できるわけではなく、経済的理由等がなければ参加できない事業となっております。

今回、この学習支援教室に対してお弁当を配布していただけるということで、この一食だけの支援でも保護者の負担は軽減され、その時間をコミュニケーションに当てることもできるわけですので、この活動に対して我々もご協力させていただくことになりました。

